

## 【無形民俗文化財】

### らんじょう かぐら 【濫觴神楽】

南北朝時代、義良親王を奉じて靈山に入城した北畠顕家が、ご幼少の親王を慰めるため臣下の若士をして抜刀舞踊させたのがその始まりといわれる。

以後、顕家が出陣するに際し、武運長久を祈願して、麓の鈴嶽神社に奉納されていたのが、今に伝えられている。



### らんじょう ぶがく 【濫觴武楽】

今から約650年前の南北朝時代、北畠顕家卿が義良親王を奉じて靈山城に入城した際、山上の山王大権現に剣の舞を奉納し、武運長久と士気の鼓舞を祈願したのがその始まりといわれる。



### かんとく かかしまい 【関東案山子舞】

今から数百年の昔、靈山に国府がおかれた頃、坂ノ上地区には多くの人々が田畑を耕し平和に暮らしていた。しかし、近くの山野には猪がたくさん住んでいて、田や畑を荒らすため農民達は大変困ってしまい、ついに弓を持って猪を射殺してしまった。けれども里人達は、殺された猪をあわれに思い、供養のため猪頭をつくり、踊り舞ったのが始まりといわれる。



### じゅうざんこう えしき 【十三講会式】

宗祖日蓮聖人の御入滅の日である旧暦10月13日に行われている。

地区民によって仏前に供えられる二本の餅柱奉納行事は、蓮昌寺の記録などから推測して、天明時代から行われていたことが明らかである。



### きたまたししまい 【北又獅子舞】

今から約160年ほど昔の文政年間、大橋家の祖先2代目甚兵衛が東北遊行のため秋田におもむいた折、孫の土産にと山車人形を買い求め、獅子舞を習得して帰った。その後、集落の若者にこの舞を教え、近くの貴船神社に伝わる神楽に合わせて獅子舞として完成された。



### しもおいしししまい 【下大石獅子舞】

江戸時代中頃の享保年間、下大石の大槻三郎兵衛が、伊勢参拝の帰途京都見物をした際、子供達への土産にと三匹の獅子頭を買い求め、祇園の神主から獅子舞を習得して帰り、この舞を教え、郷社山王大権現の神前に奉納した。これがその始まりといわれる。

